

学習進路通信

2023 年度 第4号
11月 8 日発行
文責／学習進路部



自分の「輝ける場所」を探そう

先月、高大連携校である東京農業大学の北海道オホーツクキャンパスを訪問しました。

東京農業大学は世田谷（東京都）、厚木（神奈川県）、網走（北海道）の3カ所にキャンパスを有しており、オホーツクキャンパスの生物産業学部には、北方圏農学科、海洋水産学科、食香粧化学科、自然資源経営学科という4つの学科があります。北海道の雄大な自然の中で、日本でもここでしかできない独自の研究ができる魅力があることから、「国内留学」先として全国から受験生が集まる特徴があります。北海道外の出身者は学生の9割を占め（そのうち半数以上が首都圏出身）、卒業後も8割以上が北海道外で就職します。本校からもこれまでに多くの卒業生が進学し現在も在学しています。

キャンパス見学では、現在、食香粧化学科4年に在学している山脇の卒業生が、自身の研究や大学生活、就職活動のこと等を紹介してくれました。彼女はもともと「香り」について興味があり専門的に研究できる大学を探してこの学科にたどり着きました。ご両親は、北海道での1人暮らしに最初は反対していたそうですが、オープンキャンパスで一緒に大学を訪れたところオホーツクキャンパスの環境を気に入り、進学を後押ししてくれたそうです。

大学時代は大好きな「香り」の研究で企業とのコラボ商品を開発したり、地元で人気のジュラート店の店員やホタテ養殖のアルバイトをしたり、北海道での大学生活を満喫しました。就

職活動では、こうした大学での様々な取り組みが高く評価され、念願だった関西の老舗香料メーカーへの内定をもらったそうです。

大学生生活のことを活き活きと話す彼女の姿はとても輝いていました。

山脇学園の進路教育が目指すのは「生徒一人ひとりの「志」の実現」です。1,630名の生徒がいれば、1,630通りの「志」があります。大切なことは、自分にとっての「輝ける場所」はどこかを見つけることです。

山脇学園では、みなさん一人ひとりが自分にとっての「輝ける場所」を見つけられるように、これからも様々な学びの機会や学びに関する情報を提供していきたいと思います。

生徒の皆さんもぜひ様々な活動に積極的に参加して将来の進路選択に役立ててもらいたいと考えています。



▲鮭が遡上する土別川（右下は羽ばたく白鳥）

学習・進路支援の取り組み報告

中 1

■夏期自習室開放&数学補習講座開講

7月の家庭学習日には課題が終わっていない生徒を中心に、学校に来て課題ができるよう自習室を開放しました。夏期講習期間中には自習室を開放するだけでなく夏期講習とは別に数学の補習も行い、2学期に向けての不安を解消しました。教室は連日意欲ある生徒でいっぱい、お互いに教え合い、課題の確認をする姿が多くみられました。

■朝学習&終礼前学習

朝学習のラインナップにリスニングを加えました。今まで通り SEL (Social and Emotional Learning) や読書、計算力も続けています。すぐに結果が出るようなものではありませんが、じっくりと取り組み基礎学力を向上させていきます。

■9月1日 学年集会「2学期の攻略法」

「2学期の攻略法」としてガイダンスを実施しました。行事の忙しい2学期だからこそ勉強計画の重要性を再確認し、挑戦する気持ちを鼓舞しました。

■放課後講習&放課後学習

放課後学習として TOEFL iBT 講座と TOEFL Junior 講座が開講されました。申し込んだ意欲ある生徒たちはレベルアップを目指してよく努力しています。また、放課後学習は週3日から週2日に減りましたが、その分部活や個人の取り組みに時間を使えるようになりました。部活が終わってから SSI を利用する生徒も増えてきているようです。

中 2

■夏休みの学習について

昨年度からの試みとして、数学は4回に分割し、細かく区間を区切った課題提出を実施。今年度は英語も7月後半、8月前半、8月後半

の3タームに分けて毎日20分の課題配信、担当者チェックを行いました。従来は2学期頭に一括で提出するものでしたが、iPad が導入され、ロイロノートや Google Classroom といった相互通信手段が構築されたことで可能になりました。英語は生徒自身の力で、学習習慣をつけ、学習計画をたて、毎日短時間で効率的に習得することを徹底し、次年度へのさらなる成長につなげます。また今年度、数学では添削課題を複数渡し、休み期間を利用してじっくり取り組んだ上で添削を受ける機会を設けました。解き方を暗記するのではなく、自ら論理を構築していく力の育成を目指しています。

学習効果を考えると、課題とは冒頭に一気に片付けるべきものでも、ましてや期限ぎりぎりに取り組むべきものでもありません。上級学年に向け、学習を自己管理できるよう、今から学習習慣を意識して身に付けていきましょう。

■Studyplus S-1 グランプリサマー

夏休みに Studyplus に登録した勉強時間を全国の仲間と競い合う S-1 グランプリに参加し、中2からは10人が全国100位以内に入賞しました。校外の同級生は、ここから高校受験に向け学習時間が増加する時期です。中学の半分が終わったこのタイミングに一度自らの学習量・学習方法を振り返ると、効果的な学習につながりますよ。

■10月11日 みんなの勉強法

学習方法を振り返る参考として、予めアンケートに答えてもらった内容を基に「みんなの勉強法」を共有しました。各教科の学習法だけでなく「息抜きの方法は?」「スマホとの距離の置き方は?」など盛り沢山の内容となっています。生徒の皆さんの投票により、後日それぞれの No.1 を発表する予定です。

■学年 S-1 グランプリ

中2では Studyplus を利用して二人三脚の学習

を目指しています。行事が多い2学期、考査に向けて切り替えられるよう、Studyplus 社にご協力頂き学年 S-1 グランプリを開催しました。体育祭終了後～考査期間中の学習時間を競います。期間終了後には、各自の学習量や教科間のバランスなど分析シートを配布しています。上手に活用して、これからの学習計画を改善していきましょう。

■総合学習からの課題～キャリア教育として～

中学2年では社会を知る「社会知」に取り組んでいます。1学期には「職業インタビュー」を行い、身近な方の仕事内容やご苦労、また誇りを持って仕事をされていることを知りました。夏休みはそこから一歩進み、「私のなりたい職業」レポートを提出してもらいました。13,14歳で将来何になりたいか、社会にどう貢献していきたいか考えることは難しいと感じていた生徒達もじっくり取り組み、今関心のあることから将来こうなれたらいいなと夢や目標を持つことが出来たようです。そしてそれを達成するためには今何をすべきか学習面はもちろんのこと相応しい大人の女性に成長するために必要なことは何かを考え、レポートを作成しました。クラス内で共有する時間をもったことでクラスメートの夢や目標を知りお互いに高めあうきっかけになればと思っています。

中3

■夏休みの学習について

中学校3年生では、以下の表の通りの課題を、夏休みの課題として出しました。下記の通り、期限を細かく区切って提出を促しました。毎日コツコツと、1日2時間程の学習習慣がついていれば、決して過酷な量ではないものでした。

<夏休みの課題リスト>

英語	○学推 2022 期限：7月21日(金) 22:00
----	-------------------------------

	○学推 2021 期限：8月31日(木) 22:00 ○WinPass コース A 期限：7月31日(月) 22:00 ○WinPass コース B 期限：8月20日(日) 22:00 ○WinPass コース C 期限：8月31日(木) 22:00 ○Weblio 英会話 期限：8月31日(木) ○Weblio Study 期限：9月2日(日) 22:00 ○速単音読 11, 12 期限：7月31日(月) ○速単音読 13, 14 期限：8月14日(月) ○OBR 期限：初回の授業まで。初回の授業でプレゼン。
国語	○夏期テキスト 期限：2学期初回授業（現代文） ○古典文法プリント 期限：2学期初回授業（古典） ○古文単語テストの予習・復習
数学	○1学期末考査解き直し 期限：7月21日(金) 20:00 ○学推過去問 2022 期限：7月30日(日) 20:00 ○動画作成（三平方の定理） 期限：8月31日(木) 20:00 ○夏期テキスト 期限：2学期初回授業 ○学推対策（冊子） 期限：2学期初回授業
理科	予習復習を徹底しよう
社	「税の作文」・「税の標語」

会	→どちらも 9 月 1 日提出
その他	○セレクト小論文 「p.12~15 貧困、格差を読む」 ○新聞コンクール ○大学に行ってみよう 『13 歳からの学部選び』を読んだうえで OC に参加。期限：9 月 3 日 20:00 ○チャレンジ中間発表準備

■夏期講習についての報告

中学 3 年生では、国語・数学・英語の夏期講習を実施しました。基本となる分野（古典文法・計算、図形・単語）について扱う講座から、実践・応用分野（読解・学推対策・英検等資格対策）講座まで、幅広く実施しました。また、今年度は英語科と技術科とのコラボレーション（STEM）講習－「豆好きの豆のための豆な講座」－を実施しました。

■進路関係の取り組み

中学 3 年生では、高校進学のために集中するのではなく、大学受験やその後を見据えた活動を行っています。具体的には、以下のことに取り組んでいます。

①小論文

1 学期から、総合的な学習の時間を活用して、学研の「セレクト小論文」に取り組んでいます。夏期課題では、その冊子からテーマを 1 つ教員が選択し、それに取り組みました。この活動を通して、「自分の意見を、筋道立てて伝える」ことを学びました。

②読書

中学 3 年生が山脇学園に入学した当初から、「読書をなぜ行うのか？」を考え、精選した書籍を、全員で読んでいます。現在、小論文はもちろん、山脇祭中間発表においても、「自分の意見を、筋道立てて伝える」ために、仲島ひとみ著・野矢茂樹監修『大人のための学習マンガ

それゆけ！論理さん』（筑摩書房、2018 年）を読んでいます。

③オープンキャンパス

進路研究の一環として、オープンキャンパスに行くことを、夏期課題としました。生徒たちは、実際に授業を見学したり、学食でご飯を食べたり、様々な経験をしました。オープンキャンパスに行く前に、東大カルペ・ディエム著・西岡壱成監修『東大生が教える 13 歳からの学部選び』（星海社親書、2023 年）を読むことで、書籍を読んで得た知識を検証する作業を、学年全体で行うことができました。

高 1

■夏期休暇中の学習への取り組み

学年進路通信「Day by Day で伸びる高 1」（7 月発行）では、①日々の学習時間の差が今後の学力の差に影響すること、②成績が伸びたと最も実感するタイミングは高 1 の 7～11 月であること＝高 1 の夏期休暇中の学習で他の高 1 生よりアドバンテージを取れることの 2 つが書かれています。各クラスで上記の内容を確認し、夏期休暇中の学習を充実させようとお話ししました。

また、学習計画・管理プリントの「SMILE」（Summer MILEstone）を生徒に配布し、夏期休暇中の学習の目標や To do リストを記入・意識するようすすめました。「各教科で色を分けて、30 分の学習で 1 マス塗る」部分を作成したことで、生徒は自分の学習時間・教科を可視化することができました。

■オープンキャンパスのススメ

夏期休暇中の課題として、「大学のオープンキャンパスに 2 校以上参加する」ことを設定しました。文理を選択できていない場合は文系学部・理系学部両方に行く、文理を選択できている場合は異なる学部学科系統に行くことを条件にすることで、生徒の視野を広げるよう促しました。

夏季休暇中にオープンキャンパスで得た発見をロイロノートでスライドにまとめて、10月に各クラスで発表しました。生徒は自分が行っていない大学の情報を知ることができて刺激になったようです。また、自分でオープンキャンパスの経験をまとめることで、志望校のモチベーションアップにもつながりました。

■三者面談（9月）

9月22日～30日で三者面談を行いました。内容は主に文理選択と科目選択についてです。例年は保護者と担任の面談でしたが、生徒・保護者の意思統一をより円滑にさせていただくため、三者面談の形で行いました。

■模試への取り組み

・過去問の課題

1学期より模試の過去問を国語・数学・英語の授業の課題として設定し、全員が過去問を2年分ほど取り組めるようにしています。現在は各教科11月実施のベネッセ学力テストに向けて過去問の課題を設定して、生徒が取り組んでいます。

・模試振り返り

7月実施のベネッセ学力テスト、8月河合全統高1模試を振り返りシートを使って振り返りをしています。ベネッセ学力テストについては、生徒が各教科の問題の難易度別に自分の得点を集計し、自分たちがどのレベルの問題を中心に復習・対策すれば良いかを確認しました。河合全統高1模試については、各教科の自分の①弱点分野、②強みの分野、③（その科目の）全体の成績の振り返りをしました。その際As is To beのフレームワークを使い、現状（の点数）と理想（の点数や得点率）を明確にし、そのギャップを埋める（解決する）ためにどのように行動するかを上①～③について考えてまとめました。

■英語科の取り組み

・模試分析結果の説明

9月下旬の朝礼時に、7月実施のベネッセ学力テストと9月実施のスタディーサポートの分析結果を生徒に説明しました。山脇の高1生の正答率の高い問題は授業の取り組みの成果でもあることを共有し、さらに授業に集中しようと話しています。また、今回正答率が悪かった問題は未習範囲であったり、中学3年時の学習範囲であったことも伝えています。この結果を受けて次のmini zapなどの取り組みを始めています。

・mini zapについて

英語科より、自習プリントとしてmini zapを朝礼時に配布しています。授業中にあまり触れることができない文法やフレーズを練習するためのもので、5分で終わるものなので、気軽に取り組むことができます。このプリントを通して、生徒の復習を促進しています。

・英語強化プログラム

10月上旬より、30名ほどの生徒を対象に、英語強化プログラムを開始しています。主に課題を行うこととユメタンテストの復習・mini zapへの取り組みの習慣化を目指しています。高校1年のうちに身につけるべき内容を習得できるようにサポートしています。

高2

■Summer Boost Program の実施

夏期講習の第1ターム、夏休みの学習のスタートダッシュ企画として、Summer Boost Program を実施しました。参加者は200名と、学年の80%が参加し、講習と自習を組み合わせで1～6時間目まで集中して勉強しました。

初日には、青いカードに3日間の目標を記入して掲示場所に立てました。



また、勉強応援企画として、希望者は日替わり弁当とデザートを購入し、昼休みに食べました。

最終日にはカードに「修了証」をプリントして渡しました。

【生徒の感想から】

・家では夏休みの課題を進めることに時間を割いてしまうため、授業のある 5-6 限以外の 1~4 限全ての時間を英検準一級の勉強に使いました。春休み頃から少しずつパス単を進めていて、でる度 C の 1600 語まで手をつけられていたものの記憶の抜けが自分の想像以上に多かったので、この 3 日間で 500~1200 までの単語を復習しました。何度見ても覚えられない単語は紙に書いて、自分だけの単語帳のような形式でまとめていました。今までは赤シートで隠してわからない単語に印をつける、という作業を繰り返すのみだったので書く方法は試したことがありませんでしたが、この 3 日間取り組んで、時間はかかるものの明らかに視覚的に暗記するよりも、手を動かして触覚も利用する方法の方が記憶に定着することがわかりました。自分に適した新しい勉強法を見つけられたという意味でもこの 3 日間は価値のある時間だったと感じています。

・夏休みが始まったばかりのこの時間を娯楽から完全に自分を引き離して勉強と真剣に向かい合い、集中して勉強する友達の姿に刺激を受けたことで、自分の中でエンジンが掛かったような感触があります。このまま勉強習慣を継続させて、この夏休みで何か達成できたと言えるように頑張っていきたいです。



■8/23 河合塾第 2 回全統高 2 模試を実施しました。夏の学習の成果を試す機会となりました。

■HR での実施内容

・ 9/6HR

6 月末に受験した、ベネッセの模試の自己分析会を実施しました。各教科（英国数）の教員からの分析結果を提示し、生徒たちが自分自身の強み・弱みを把握していきました。今後の学習で重点的に行うべき具体的アクションを考え、学習の目標を立てていきました。

・ 10/4HR

過去に受験した模試の結果を用いて、自己の志望する大学から目標校・相応校・安全校を挙げ、今の自分の偏差値帯と目標校の偏差値帯との差を明確にし、今後の努力につなげるためのワークショップを行いました。

■保護者進路面談の実施

夏休み中に家庭で考えた希望進路をもとに、高校 3 年時の選択科目の確認や志望進路の確認を行いました。多様な進路へ視野を広げられるよう、学習進路部と情報を共有しながら進めていきました。

高 3

■模擬試験について

8/23(水)に河合塾第 2 回全統記述模試を実施しました。夏期休業中の学習の成果が出て、手応えを感じている人たちがいました。

■面談について

7/24(月)~8/5(土)または 9 月 25~30 日の面談期間に、三者/保護者/生徒面談を実施しました。どの選抜に出願するか、夏期休業中の学習の進み具合はどうかなど、話し合いました。

■夏期講習・自習室について

夏期講習期間に合わせて、SSI 自習室に加えて高 3 学年でも自習室を開室しました。

■共通テスト出願票記入ガイダンスの実施

9月6日（水）に実施しました。共通テスト出願票を記入する上で注意すべきことを聞いた上で、受験案内や募集要項をよく読み、不備がないように準備をしました。

■大学担当者による個別進学相談会

10月26日（木）に44大学の担当者による個別進学相談会を実施し、190名以上の生徒が参加しました。

それぞれの大学の担当者か大学の紹介や各選抜方式についての最新の情報などを丁寧に説明していただき、受験に向けての参考になるとともに、大学進学へのモチベーションアップにも繋がりました。大学の担当者の方からも「どの生徒さんも熱心に話を聞いてくれてこちらも力が入りました」という感想をいただきました。



2023 年度指定校一覧

2023 年度(2024 年度入試)の学校推薦型選抜(指定校制)について、本校に依頼のあった大学学部学科の一覧を下記リンク先に掲載します。

なお、依頼校や募集人数・被推薦者の条件は、各大学が1年ごとに見直しを行うため、毎年変わります。また、表では全体の成績条件のみを掲載していますが、実際は科目ごとに細かい条件がある場合や出欠など成績以外の条件がある場合があります。より細かい条件等について知りたい場合は学習進路部の教員にご相談下さい。

[🔗 2023 年度指定校推薦基準一覧](#)

高1・高2 進研模試 振り返り

高校では5月・8月に河合塾全統模試、7月11月・1月にベネッセの総合学力テストを受験しています。今回は7月に実施したベネッセの総合学力テスト（進研模試）の結果についてご報告します。

進研模試は、大学・短大進学を目指す、全国45万人が受験する全国最大規模の模試です。この人数は大学入学共通テストの現役受験者数とほぼ同じです。そのため、大学進学を目指す全国の高校生の中で自分がどれぐらいの位置にいるのかを確認することができます。

下の【図1】はベネッセの2023年度入試結果調査データを元に学習進路部が作成した表です。大学グループごとに最も合格ラインが低かった大学に合格した生徒が、高2の1月模試の時点でどのような成績（英国数の総合偏差値）だったのかのかについてまとめたものです。

	大学グループ	合格者平均偏差値 (高2-1月総合成績)	合格者最低偏差値 (高2-1月総合成績)
国立大	旧帝大	68.5 (北海道大)	64.8 (北海道大)
	国立医学部	69.3 (富山大)	64.6 (香川大)
	国立薬学部	66.2 (熊本大)	57.6 (熊本大)
	首都圏国立大	60.1 (埼玉大)	52.6 (埼玉大)
	地方国公立大	52.4 (北見工業大)	44.4 (北見工業大)
	早慶上理	67.3 (上智大)	56.0 (上智大)
私立大	首都圏医学部	65.6 (埼玉医科大)	57.6 (杏林大)
	MARCH	60.1 (法政大)	49.4 (法政大)
	三女子大	57.8 (日本女子大)	49.1 (日本女子大)
	成成明國武	54.6 (國學院大)	45.1 (國學院大)
	日東駒専	53.6 (日本大)	43.9 (日本大)

【図1】大学グループごと合格ラインの目安

(ベネッセのデータを元に学習進路部が作成)

たとえば上から二段目の国立大医学部の欄を見ると、合格者の最低偏差値は香川大学医学部の64.6、つまり、2023年度の高3生のうち、高2の1月模試の英国数の総合偏差値が64.6を下回っていた生徒で国立大医学部に合格した生徒はいない、ということを示しています。

このことから、国立大医学部を目指すなら高2の1月時点で、最低でも英数国の総合偏差値で65以上（受験生上位6.7%）の位置にいないと合格できなかったことが分かります。ただ

し、これはあくまで合格者最低偏差値の話で、合格者平均偏差値の最低値は富山大の 69.3 です。それを踏まえると国立大医学部への合格が現実味を帯びて来るのは、高2の1月時点で合格者最低と合格者平均の中央値すなわち偏差値 67 前後（GTZ でいえば S3）の位置にいる必要があるといえます。これが「国立大医学部を目指すなら S 以上」と言われる理由です。

なお、この数字は全国の大学を視野に入れた場合で、首都圏の国立大医学部に絞れば、千葉学医学部が最も低く、合格者平均 74.2、合格者最低 67.8、中央値 71.0 という数字になります。首都圏の国立大医学部に合格するには最低でも偏差値 68 以上、合格が現実的になるのは偏差値 70（GTZ で S2）以上というのが目安です。

これを他のグループに当てはめると次のようになります。

私大大医学部は偏差値 62（A1）以上が目安、最低でも偏差値 58（A3）以上が必要。

早慶上理グループは偏差値 62（A2）以上が目安、最低でも偏差値 56（A3）以上が必要。

MARCH グループは偏差値 55（A3）以上が目安、最低でも偏差値 49（B2）以上が必要。

日東駒専グループは偏差値 49（B2）以上が目安、最低でも偏差値 44（C1）以上が必要。

もちろん、これはあくまで 2023 年度入試の結果であり、2024 年度入試にそのまま当てはまるわけではありませんが、1つの目安にはなると思います。GTZ の基準は学力推移調査でも同じです。目標に向けて高2の1月模試から逆算して、できるだけ早い時点で目安のラインをクリアし、それをキープしていくことが、自分の理想の進路を実現する最善の道といえます。

なお、模試には、志望校との目安を測るという目的のほかに、現時点で自分が何ができて何ができていないかということ把握できるという目的があります。進研模試では、全国正答率 80%の基礎基本問題から全国正答率 10%の応用問題まで幅広い難易度の問題が出題されるため、それぞれの科目における自分の得意な部分

と苦手な部分を把握し、次に向けた課題を見つけるのに役立ちます。

続いて高1・高2の学年ごとに模試結果の振り返りをまとめたものをご報告します。

高1

総合成績では、4月に受験したスタディサポートと比較して学習到達ゾーン（GTZ）が上がった生徒が 66%、変わらなかった生徒が 24%、下がった生徒が 10%で、全体としては成績が上がった生徒が多いという結果でした。

GTZ の層別で見ると、前回 D 層だった生徒の 100%、前回 C 層だった生徒の 79%、前回 B 層だった生徒の 71%が前回よりも GTZ が上がりました。成績上位になるとさすがに成績の上昇率は下がっていきませんが、それでも前回 A 層の生徒の 77%、前回 S 層だった生徒の 100%が前回と同じ GTZ または前回よりも高い GTZ という結果でした。

こうした中で、4月から7月にかけて成績が下がっていた生徒については、周囲の流れに置いていかれないように注意が必要です。1学期に積み残している学習事項を復習しできるだけ早く周囲に追いつけるよう努力しましょう。

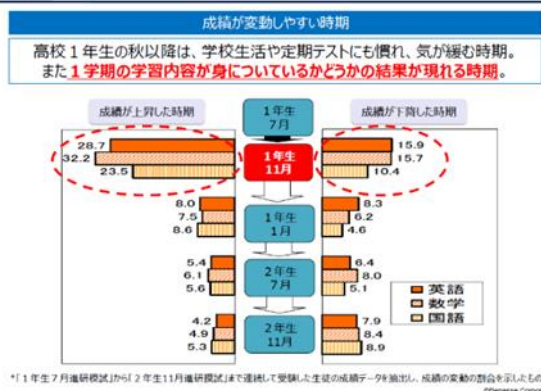
高校1年生は学年全体としては非常に順調な滑り出しだったといえますが、肝心なのはここから先です。

次ページの【図2】は、進研模試を受験している全国の高校生の、高1～高2にかけての時期ごとに成績が上昇した生徒と下降した生徒の割合を示したグラフです。成績が上昇した生徒が圧倒的に多いのが高1の7月から11月にかけての時期であることが分かります。反対に成績が下降した生徒の割合が多いのもこの時期です。

高校1年生の秋以降は、高校生としての学校生活にも慣れ気が緩む時期です。だからこそ、一生懸命勉強に取り組む生徒と、そうでない生徒の差が大きく開きます。今の成績を大きく伸ばしたいと考えている生徒にとっては、残りの

高校生活の中でもこの時期が最大のチャンスといえます。

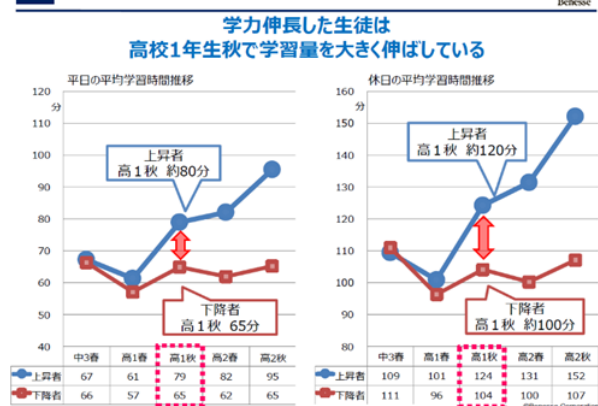
3 高校1年生の秋は一番成績変動が大きい



【図2】成績が変動しやすい時期（ベネッセの資料より）

【図3】は、高1の秋の学習時間の差が、高2以降の成績にどのように影響するかを示したグラフです。

2 高3にかけて学力伸長した生徒の特徴



【図3】学力伸長した生徒の特徴（ベネッセの資料より）

学習時間の差は、中3春～高1春まではそれほど大きな成績の差となって現れません。「それほど勉強しなくても成績が上がった」「勉強したけれどそんなに成績が上がらなかった」という感じ方をする生徒も多いと予想されます。ところが、高1の秋以降になると学習量の差が模試成績の差として顕著に現れてきます。そして、これ以降は、時期を追うごとにこの差が大きく広がっていくことが分かります。

これらのデータから、高校1年生にとって今

の時期がこれからの学習成績、さらには高校卒業後の進路を大きく左右する大切な時期であることが分かります。この機を逃さず弱点強化や基礎固め、さらなるレベルアップに向けた学習に取り組みましょう。

高2

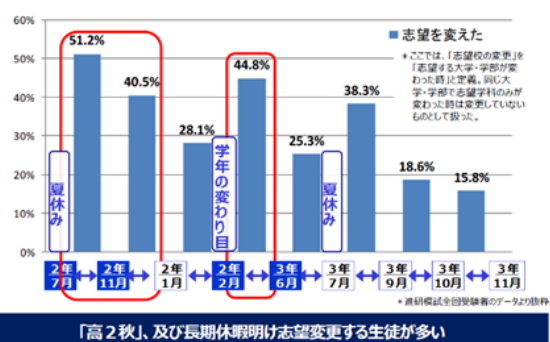
高校2年生は、高1の1月以来の進研模試の受験でした。前回までは全員が英数国3科目の受験でしたが、文理コースに分かれた今回は志望校の受験科目に合わせて、文系コースの生徒の81%、理系コースの生徒の46%が、英国もしくは英数の2科目受験であった点が前回と異なる点です。

今年の高2の特徴としては、理系コースで国語を受験する割合が初めて5割を超えた点が挙げられます。「探究」や「サイエンスクラス」の導入などにより研究活動をベースに進路を選ぶ傾向が強まった結果、国立大を目指す生徒が増えたことがこの数字に表れています。

とはいえ【図4】にあるように、高校2年生秋から冬にかけての時期は志望校はまだ流動的です。今後の模試結果をふまえて、そのつど自分の学力に向き合い、志望について確認する必要があります。高い目標を目指して頑張るのか、志望校の視野を広げて考えるのか、先生やお家の方と相談してじっくり決めていくことが大切です。

5 高校2年生では志望が揺らぎやすい

◆第一志望校を変更した生徒の割合



「高2秋、及び長期休暇明け志望変更する生徒が多い」

【図4】志望校を変更しがちな時期（ベネッセの資料より）

<文系>

英国の総合成績では、前回（高1-1月）と比較して学習到達ゾーン（GTZ）が上がった生徒が41%、変わらなかった生徒が30%、下がった生徒が29%で全体として成績が上がった生徒が多いものの、生徒によって伸びている生徒と伸び悩んでいる生徒の差が出る結果でした。

GTZの層別ではC層・D層の生徒では81%が成績が上昇している一方で、B層で成績が上昇した生徒は38%にとどまり、中間層の伸び悩みが目立ちます。またA層、S層でも前回の成績をキープできない生徒の割合が増えています。

高校2年生になると、多くの学校で文系・理系のコースに分かれ、より大学入試の受験科目を意識した学習に切り替える生徒が増えます。文系でいえば、英語・国語（特に古典）の学習により多くの時間をかける生徒が増えます。

その中で「自分なりに」前よりも学習を頑張っているつもりでも、他の高校2年生も同じようにがんばっているため、なかなか成績が伸びず、ともすると下がってしまう傾向になりがちです。そうすると学習に対するモチベーションが下がって、さらに成績が伸び悩むという負のスパイラルに陥ってしまいかねません。

その場合に大切なのは、GTZや偏差値という目の前の成績よりも、「自分が他の生徒と比べてどの問題が解けていないのか」「自分に足りていない学習はどの分野か」を自分の答案や成績資料から確認して、1つ1つ対策をしていくことです。

この時期に成績が伸び悩む生徒の多くは、問題を解く上での基礎となる分野が十分に身につけていなかったり、一度身につけた知識や解法を忘れてしまっていたり、特定の分野について「抜け」や「漏れ」がある場合が多いです。中2～高1の学習内容にさかのぼって1つ1つ学び直すことが、遠回りなように見えて、結果的には成績向上につながります。学習方法が自分に合っているかどうかの見直しも大切です。

<理系>

英数の総合成績では、前回（高1-1月）と比較して学習到達ゾーン（GTZ）が上がった生徒が9%、変わらなかった生徒が28%、下がった生徒が63%という結果でした。

このような結果の原因の1つには、文系と同様に受験者の母集団の変化が考えられます。

高1スタート時点では、文理コースに関わらず全ての生徒が英国数の3科目を受験する学校が大半を占めます。ところが、高2からは文理コース別になり、私大文系を目指す生徒は数学を受験しなくなります。そうした生徒の割合は回を追うごとに増えていきます。その結果、数学受験者の母集団は「本気で」数学を受験科目として勉強している理系の生徒か、文系でも国公立大をメインターゲットに考えている学力上位の生徒に絞られることになり、上位層になればなるほど、強力なライバルとの争いになります。

難関大学を目指す生徒にとっては成績が伸びず苦しい時期ですが、ここであきらめずに努力を続け、これまでの自分の「壁」を超えられるかどうかが志望校合格へのカギとなります。

成績が伸び悩んでいるもう1つの原因として考えられるのが「複数の科目を伸ばせている生徒が少ない」という点です。科目別で見ると英語・数学ともに38%前後の生徒の成績が上昇した一方で、英数の総合成績では成績が上昇した生徒は9%にとどまりました。つまり、「英語だけ」「数学だけ」は成績が上がったもののもう一方の科目の成績が下がったという結果の生徒が多かったということです。

いうまでもなく大学入試は複数の科目の総合成績で合否が判定されます。私立大なら3教科、国立大なら5(6)教科をバランスよく満遍なく伸ばしていく必要があります。そのためには、学習計画を立て自分でスケジュール管理をすることが大切です。気持ちの面でも行動面でも「受験生」に切り替えていくことが求められています。

夏期講習 実施報告

夏期講習では、中1から高3まで全135講座に延べ5,013名の生徒が参加しました。1人あたりに換算すると平均3講座に参加したことになり、皆さんの学習意欲が伝わってきます。冬期講習は12/25～27の3日間。11月頭には募集がスタートします。こちらもぜひ積極的に参加しましょう。

	開講講座数	申込者数	参加延べ人数
中1	12	274	1460
中2	14	252	1127
中3	9	162	515
高1	9	162	472
高2	40	210	921
高3	45	135	518
英検(学年混合)	6	各学年に含む	〃

夏期講習 開講講座数・申込者数・参加延べ人数

高大連携プログラム

芝浦工業大学サマーインターンシップを実施しました

高校生が大学の研究を体験できるプログラムである芝浦工業大学サマーインターンシップを7月31日（月）から8月5日（土）にかけて実施しました。



昨年度山脇学園と昭和女子大附属昭和の2校の参加でしたが、今年は跡見学園女子・恵泉女学園・実践女子学園・潤徳女子の4校が加わり、6校57名の女子生徒が参加したことで、生徒同士の交流の機会が増えました。

8月1日（火）から8月3日（木）にかけてそれぞれの研究室で研究活動を行い、その成果を8月4日（金）に豊洲と大宮で行われた系統別発表会

表会で発表しました。

参加した生徒からは、「このプログラムを通して大学生や大学院生、教授の方々と交流して大学で何を学ぶのか改めて知り、実際に経験することができたと思う」「当たり前だと思っていたことに目を向け、小さいことでもそれについて深く考えるという新しい概念が自分の中に生まれました」といった感想が寄せられました。

高大連携プログラム

SBMC Junior キックオフイベントに参加しました

8月28日（月）に、芝浦工業大学豊洲キャンパスにて、SBMC Junior（Shibaura Business Model Competition Junior）のキックオフイベント『『ビジネスモデル・キャンパス』ワークショップ』が開催され、本校の高校2年生6名が参加しました。



SBMC Junior は東京大学・東京工業大学・早稲田大学を主幹機関とした『世界を変える大学発スタートアップを育てる』プラットフォームGTIE（Greater Tokyo Innovation Ecosystem）の中高生版プログラムとして、EDGE-PRIME Initiative に採択されたアントレプレナーシップ教育プログラムです。中学・高校では芝浦工業大学付属・芝浦工業大学附属柏・山脇学園・昭和女子大学附属昭和の4校がプログラム開発／検証対象校として参加しています。

8月28日（月）のキックオフイベントには山

脇からは 6 名の生徒が参加。BMG (Business Model Generation) の第一人者である今津美樹先生のサポートを受けながら他校の生徒とビジネスアイデアづくりのワークショップを行いました。

SBMC Junior の今後の展開としては、11 月 18 日 (土) に「ビジネスアイデアコンテスト」、12 月 18 日 (月) にスタートアップ企業見学会をそれぞれ予定しています。各種イベントの案内については Google Classroom をご参照下さい。

進路イベント

大学 4 年生の卒業生 2 名による講演会を実施しました

9 月 6 日 (水) に、Learning Forest で本校の卒業生による講演会を実施し、中 1 から高 2 まで 30 名ほどの生徒が参加しました。

今回来てくれたのはブラスバンド部の同級生 2 名で、それぞれ立教大学社会学と金沢大学理工学部の 4 年に在学しています。

文系と理系、私立大と国立大、首都圏大と地方大という対照的な進路を選んだ 2 人が、大学での研究のこと、学生生活の事、受験勉強の事、高校時代を振りかえってこうしておけばよかったと思うことをプレゼンテーションしてくれました。



発表後は参加生徒との間で活発な質疑応答が行われ、卒業生は後輩たちの質問に 1 つ 1 つ丁寧に答えてくれました。

参加者からは「リアルな大学生活や、高校時

代の勉強方法、受験生の頃の話などすごくためになった」「理系の OG、文系の OG の両方の先輩方から話を聞くことができていいヒントになった」「自分のやりたいことに全力で取り組んでいてかっこいいと思った」といった感想が寄せられました。

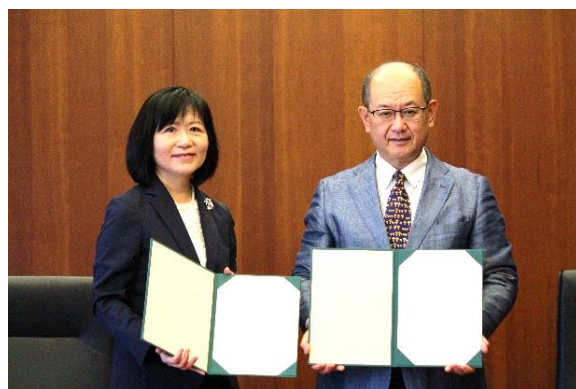
高大連携プログラム

東京農業大学と高大連携協定を締結しました

9 月 12 日、これまでも様々な連携活動を行って来た東京農業大学 (東京都・世田谷区) と正式に教育連携協定を締結しました。相互協力事業の内容は下記の通りです。

- 一 農学・生命科学を学ぶ機会を生徒に提供すること
- 二 教職員相互の交流を深めること
- 三 その他、双方が必要と認める事項

相互協力事業においては相互の施設・設備などを活用できるものとし、相互に関心を持つテーマについては共同で研究活動を行うことになりました。



▲連携協定締結式の様子 (右は江口学長)

協定締結後の最初のプログラムとして、12 月 22 日に中 2～高 2 の生徒・保護者 (いずれも希望者) を対象とした「大学の学び」体験会を実施予定です。このイベントは昨年度も実施したのですが、プログラムの内容は昨年度とは異なるもので準備中ですので、リピーターの方も大歓迎です。

こちらについては、プログラムの詳細が決まり次第、改めてご案内致します。

高大連携プログラム

学習院女子大学による平和教育プログラムがスタートしました

10月4日（水）に、学習院女子大学と高大連携事業である平和教育プログラムがスタートしました。

中学生を対象とした第1回の授業では、国際コミュニケーション学科の畠山圭一教授を講師としてお迎えして、「戦争はなぜなくなるのか」というテーマによる講義を実施しました。



戦争とは政治目的を達するための国家間の武力闘争であり、現代でも紛争解決の最終手段として認められていること。紛争・戦争の原因は単純ではなく、戦争の性格も歴史的に変化してきたこと。戦争と平和は対立概念ではなく、平和の希求がかえって戦争を拡大し、正義の追求が戦争を激しくすることもあることなど、国際政治学の専門家による知見に基づくお話を聞いて、生徒たちは新鮮な気づきを得たようです。

中学生を対象とした2回目の授業は、11月8日（水）実施。テーマは「平和とは何か」です。

また、高校生を対象としたプログラムとしては来年1月10日と2月28日に、国際コミュニケーション学科の伊藤由紀子教授によるルワンダ共和国からの中継授業を予定しています。

SSI（Self Study Island）便り

■自習室利用促進キャンペーン実施報告

SSIでは各定期考査前に自習室利用促進キャンペーンを開催しています。自習室では特に考査直前の期間、個人ブースが大人気となりますが、日頃の自習室利用時間が一定時間を超えた生徒は、通常は先着順である個人ブースの予約チケットを獲得できるというものです。

今回は、2学期中間考査に向け、9/21～10/11にキャンペーンが開催されました。結果、上記期間の利用時間が20Hを超えた13人の生徒が2枚、15Hを超えた19人の生徒が1枚のチケットを獲得し、自習室が混みあう考査1週間前の期間に有効活用していました。

定期的なキャンペーンもあって、SSIで学習するという勉強スタイルが生徒の皆さんにも浸透しつつあるようです。SSIでは今後も利用促進につながるイベントを企画していきます。積極的に利用し効果的な学習につなげることを期待します。

■Studyplus S-1 グランプリ 2023 Summer



夏休休暇中の7/24～8/20の4週間にわたって、Studyplusでの学習時間を競うS-1グランプリサマーが開催されました。全国の同学年の生徒たちと競った結果、本校からは19人の生徒が各学年の全国トップ100位以内に入賞しました。

Studyplusは受験生の2人に1人が使用する広く認知されている学習管理アプリで、本校でも今年度より導入しています。日々の学習時間・内容を記録することで教科間のバランスや学習時間の推移などの客観的把握が容易になります。更に、学校とも連携していますので、学習状況

に係わるアドバイス等を通じて自走して学習する姿につながるといったものです。本校でも導入して半年がたち、徐々に上手に活用できている人が増えてきている様子が伺えます。

効果的な学習のためには日々の学習の質が重要である一方で、一定の学習量も欠かせません。Studyplus では今後も定期的な様々なイベントが開催される予定ですので、励みの一つとして学習習慣の定着に努めましょう。

■夏休み atama+対抗戦「学習時間バトル」

夏休み中の atama+の学習時間を競う『atama+学習時間バトル』の結果発表です。

総合1位は他校の生徒が獲得しましたが、総合2位に中3生が、総合3位に中2生がランクインするなど、山脇生も大健闘しました。今回悔しい思いをした生徒も次回はランクインできるようにまたぜひチャレンジして下さい。

■OG による進学イベント

11月18日(土)、河合塾による大学受験ガイダンスと山脇OGによる学部学科ガイダンスをSSIで実施します。

河合塾によるガイダンスでは、受験最新情報や25年度入試についてのお話を、山脇学園OGによる個別相談では、東京医科大学・医学部、東京理科大学・創域理工学部、立教大学・経済学部など様々な大学のお話をそれぞれ聞くことができます。

先着100名限定のイベントです。参加を希望する方は**11月10日(金)**までに下記ポスター記載されたQRコードよりお申込み下さい。

右の画像を
Clickすると
拡大します

学力テスト・模擬試験

10月～1月実施の学力テスト・模擬試験のスケジュールです。いずれも学校での受験です。

学年	業者	学力テスト・模擬試験	実施日
高3	河合塾	第3回全統記述模試	10月12日
高1	ベネッセ	総合学力テスト	11月1日
高2	ベネッセ	総合学力テスト	
高3	ベネッセ	第3回ベネッセ・駿台マーク模試	11月1日 11月2日
中1	ベネッセ	第3回学力推移調査	1月12日
中2	ベネッセ	第3回学力推移調査	
中3	ベネッセ	第3回学力推移調査	
高1	ベネッセ	総合学力テスト	
高2	ベネッセ	総合学力テスト	

成績は模試実施の約1カ月後に返却となります。

学習進路関係イベント

10月～1月の学習進路関連イベントのスケジュールです。生徒対象のものについては、当日に配布した資料などを通してプログラムの内容をご家庭で共有してください

学年	対象	イベント	実施日
中1～中3生徒		学習院女子大学平和教育プログラム 第1回(中学生)	10月4日
中3	生徒	専修大学キャンパス見学会	10月25日
高3	生徒[希望者]	大学担当者による個別進学相談会	10月26日
高3	生徒	中央大学説明会	11月8日
中1～中3生徒		学習院女子大学平和教育プログラム 第2回(中学生)	11月8日
中3～高2[希望者]		金沢大学 大学・入試説明会 ～国内留学のススメ～	11月15日
中3～高2[希望者]		芝浦工業大学SBMC Junior ビジネスアイデア発表・交流会	11月18日
高3	生徒・保護者	進学ガイダンス	11月29日
中3～高2[希望者]		芝浦工業大学SBMC Junior スタートアップ企業見学ツアー	12月18日
中2～高2[希望者]		東京農業大学「大学の学び体験会」	12月22日
高1・高2生徒		学習院女子大学平和教育プログラム 第3回(高校生)	1月10日
高3	大学入学共通テスト受験者	大学入学共通テスト自己採点	1月15日
高3	大学入学共通テスト受験者	大学入学共通テスト結果ガイダンス	1月19日

『学習進路通信』のバックナンバーはこちらから

[在校生・保護者の皆様へ > 進路情報](#)